

議案 97 号 川越線南古谷駅自由通路整備工事の施工に関する協定

今議案は、昭和 40 年に南古谷駅北口開設に向けて用地を一部取得したことから始まった南古谷駅北口開設が、計画から 59 年が経ちいよいよ工事着工へと進んでいくための重要な議案であると認識しております。

既に埼玉新聞に掲載され、早速地域の方から喜びの声をいただいております。

完成まであと一歩というところまで進めていただいた川合市長はじめ執行部の皆様、これまで関わってこられた皆様にまずは感謝申し上げます。

それでは質疑に入らせていただきます。

まず 1 点目としまして、

●今回の議案を都市施設のみとした理由について。

A：議案を都市施設のみとした理由でございます。

都市施設である自由通路につきましては、工事完成後に市が所有する予定であることから、その工事が「議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例」第 2 条で規定する予定価格 1 億 5 千万円以上の工事の請負に該当し、議会の議決に付すべき契約であるため、議案として上程いたしました。

一方、橋上駅舎につきましては、東日本旅客鉄道株式会社が所有する鉄道施設であり、市はその工事費の一部を負担金として支出するものであるため、工事の請負に該当しないことから、議会の議決に付すべき契約ではないものでございます。

2 点目としまして、既に議会答弁においても令和 9 年度中の供用開始が示されておりますが、

●今回の契約期間が令和 10 年度までになっている理由について？お伺いします。

A：令和 9 年度中の供用開始に対して契約期間が令和 10 年度までになっていることについて、でございます。

協定の期間が令和 10 年 8 月末までとなっておりますのは、一部、工事仮設物の撤去や、協定の精算事務が令和 10 年度に必要となることから、このような協定期間を設定させていただくものでございます。

私も何度か地元の地域会議で説明を受けたことがありますが、ここに至るまでに他にも意見交換・説明の場を設けていただいたと理解しております。

そこで 3 点目としまして、

●自由通路等の整備における地元住民への説明はこれまでどのように行ってきたのか？

A：自由通路等の整備における地元住民への説明についてでございます。

市におきましては、令和元年度より、当事業の各段階において地元の地域会議や自治会長会といった会議等の場において、事業進捗の報告を行ってまいりました。また、自由通路の設

計を行う際には、施設等に関するご意見やご要望をいただいていたところでございます。

4点目としまして、そのような意見交換の場を経て

●自由通路等の設計において地元住民の意見等をどのように反映しているのか？お伺いします。

A：自由通路等の設計において地元住民の意見等の反映について、でございます。

まず、地域の方々から頂いた主なご意見といたしましては、「周辺の景観が見えるような自由通路にして欲しい」、「小休憩ができる待ち合わせスペースを作って欲しい」、「シンボルカラーは明るい緑色が良い」、「維持管理コストを抑えた施設として欲しい」といったものでございます。

市といたしましては、これらのご意見を参考に、令和3年度より自由通路の設計に取り組んでまいりました。その結果、景色を望む窓の設置、待ち合わせができるスペースの確保、緑色を基調とした案内誘導サイン等、一定程度、設計に反映できたものと考えております。

自由通路実施設計についても2点お伺いさせていただきます。

自由通路の2階平面図では地域要望通りに南北それぞれにふくらみを作っていたが、その部分の通路幅員が広くとられておりますが、5点目としまして

●自由通路のふくらみ部分はどのような作りで、どのような用途を想定しているのか？お伺いします。

A：自由通路の「ふくらみの部分」の用途について、でございます。

南古谷駅周辺は、医療機関が比較的多く立地していることなどから、車いすやベビーカーの方々も利用しやすい施設とすべく設計を進めていく中で、地域の方々からは設計の初期段階に「待ち合わせができるスペース」を望むご意見を頂きました。

このため市といたしましては、様々な場面において、車いすやベビーカーの利用者も待ち合わせがしやすい空間として、自由通路に「ふくらみ」を持たせたものでございます。

なお、この「ふくらみ」には、快適に待ち合わせが出来るようヒップバー（腰掛け）やカウンターを設置する予定でございます。

新河岸駅では供用開始直後の豪雨による吹込みや浸水によって、半年以上エスカレーターが使用できなくなったということがありましたが、6点目としまして

●南古谷駅 駅前広場の雨水対策、併せてエスカレーター及びエレベーターにおける豪雨対策について、お伺いします。

A：駅前広場の雨水対策、併せてエスカレーター及びエレベーターにおける豪雨対策について、でございます。

まず駅前広場の雨水対策につきましては、今後詳細設計を進める中で、側溝や舗装等について浸透型を用いるなど、工事上の基準に則り、適切に雨水対策を講じてまいります。

また、エスカレーター及びエレベーターの浸水対策としましては、雨水が流入しないよう、駅前広場との高低差を適切に設定するとともに、駅前広場に面する出入口付近には、側溝を設ける対策を行ってまいります。

併せて、雨水の吹込みを防ぐための屋根や庇（ひさし）を設ける計画としております。

駅周辺の住民にとって念願の自由通路工事着工は多くの方から喜びの声を聞いております。ただ同時に、工事が開始すると当面は大型車両の通行が増えるなど心配の声も上がってきております。そこで7点目としまして、

●工事開始前に駅周辺住民への説明会の実施予定について、お伺いします。

A：工事開始前における駅周辺住民への説明会の実施予定について、でございます。

本工事の開始にあたりましては、今後、地元自治会と調整の上、工事の実施方法や周辺道路の交通規制等について、あらかじめ、駅周辺の住民の皆様方に対する説明会を実施したいと考えており、駅利用者だけでなく、近隣の皆様へも十分に配慮し、歩行者等の安全の確保に努めてまいります。

現在北側には児童遊園があり日中や放課後、子供たちや近隣保育園の乳幼児が遊んでいる姿を見かけます。また自治会では年に2回児童遊園の草刈りを実施しておりますが、当然工事着工となれば使用できなくなるものと認識しております。

そこで8点目としまして、

●工事開始に伴う南北駅前広場への影響についてお伺いします。

A：工事開始に伴う南北駅前広場への影響について、でございます。

自由通路の工事につきましては、今年度末から来年度早々に着手する予定であることから、工事の開始にあたり、南北駅前広場用地にある地域のゴミ集積場の取り扱いや北口駅前広場用地にある北田児童遊園の廃園の周知方法につきまして、関係課及び地元の自治会等と相談してまいります。

また現在、南古谷駅の南北に設置されておりますシェアサイクルにつきましては、工事の進捗によって一定期間休止したり、設置台数を調整したりすることも考えられますが可能な範囲で維持してまいりたいと考えております。

なお、駅北側の自転車駐輪場につきましては、駅周辺の方々に事業の進捗について情報提供を行う中で、引き続き、自転車駐輪場の開設についてご意向を伺ってまいりたいと考えております。

現在は南口しかないため北側地域の方々は駅利用の際や送り迎えの際には東西にある線路を渡って南側まで行く必要がありますが、北口開設に伴い人や車の導線も変わってくるものと思います。そこで9点目としまして、

●南北間の交通量への影響について、お伺いします。

A：南北間の交通量への影響について、でございます。

交通量への影響につきましては、南北連絡自由通路の整備により駅周辺における車両等が南北に分散されることで、東西の踏切における交通量が一定程度減少することも想定されますが、併せて駅周辺の都市基盤の整備により、北側からの駅利用者の利便性や安全性が向上するとともに、鉄道により分断されている南北地域の交流が高まり、賑わいが創出されることも期待できるものと考えております。

南古谷駅は将来的に企業誘致が見込める広大な耕地を駅周辺に有しており、自由通路整備は、東部地域にとってのみならず、川越市にとっても大きな可能性を拓ける大きな一歩だと考えております。そこで最後に

●南古谷駅の乗降客数の推移と自由通路完成後の見通し、についてを伺い質疑とします。

A：川越線南古谷駅の乗降客数の推移と見通しについて、でございます。

まず、南古谷駅の乗降客数につきましては、令和元年度は1日平均で約1万7千人であり、その後、新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、令和5年度には1日平均で約1万6千人となっているものと承知しております。

今後、南古谷駅に自由通路が整備されることにより、南北の回遊性が利便性及び安全性の向上が図られ、地域の賑わいが期待できることから、市といたしましても、引き続き駅周辺のまちづくりを進めてまいりたいと考えております。